

# 切り花用バラの樹形管理方法「改良切り上げ方式」を開発しました

～めざしたのは、シンプルでたくさん収穫できる方法～

真野恭平（農業総合試験場園芸研究部花き研究室）

【平成30年4月16日掲載】

## 【要約】

切り花用バラの樹形管理方法として主流である「アーチング方式」の収穫本数が少ないという欠点を解消するため、「切り上げ方式」を改良し、採花する高さを管理するだけの簡単で収穫本数が多い「改良切り上げ方式」を開発した。定植後にシュートを折り曲げ、光合成専用枝を作り、1段目の収穫時には株元から20cmの高さで、2段目はその切り口から10cm上の高さで採花し、3段目以降は5cmずつ採花位置を高くして切り上げる。7月から12月までの間この方法で栽培を行った結果、「アーチング方式」と比較して収穫本数が約1.5倍になった。

## 1 はじめに

切り花用バラのベンチ栽培における主な樹形管理方法には「アーチング方式」と「切り上げ方式」がある。

「アーチング方式」は、切り花はボリュームがあり上位階級のものが多く発生し、株元から茎を切り取る単純な収穫方法が経営面積の拡大に都合がよいことから全国に普及した。しかし、収穫本数が少ないという欠点もある。

「切り上げ方式」は、樹勢に合わせて採花時に株に残す葉の枚数を考慮するとともに、発生する芽の方向により受光条件を整えながら仕立てる樹形管理方法であり、収穫本数は多いが経験や技術を必要とするものである。さらに、採花位置が高くなるため、芽かき等の作業を高い位置で行うなど作業性も劣る。

そこで、2つの方式の良いところを組み合わせ「改良切り上げ方式」を開発したので紹介する。

## 2 「改良切り上げ方式」における樹形管理方法の手順

手順は図1及び(1)～(5)のとおりである。文中の括弧内の番号は図1と対応している。

### (1) 光合成専用枝の作成

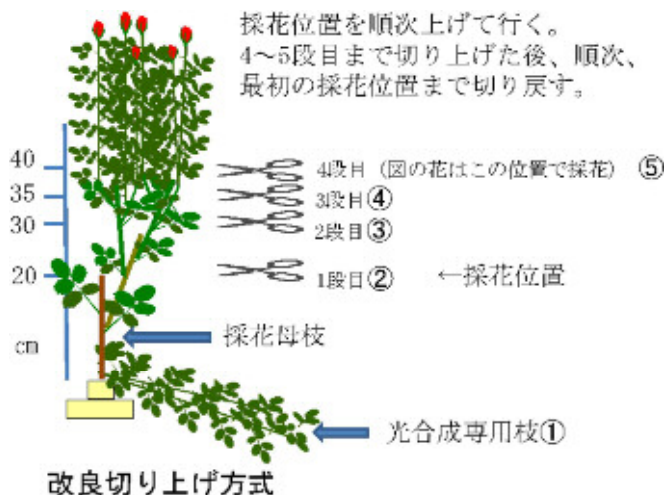
定植した苗から伸びたシュートを株元から斜め下方向に折り曲げる (①)。

### (2) 採花母枝の作成

定植から最初の収穫では、株元から20cmの高さで採花し (②)、採花母枝を作成する。

### (3) 2段目の収穫

採花母枝から発生する切り花の収穫時は、採花母枝の切り口から10cm高い位置で採花する (③)。



改良切り上げ方式

図1 改良切り上げ方式模式図及び手順

#### (4) 以降の収穫

3段目以降の収穫では、前の切り口の高さから5cm高い位置で採花し、順次切り上げる(④、⑤)。

#### (5) 株元から発生するシュートの折り曲げ

栽培中に株元から発生するシュートは光合成専用枝にするため、株元から折り曲げる。

### 3 増収効果

この「改良切り上げ方式」と「アーチング方式」の比較試験を実施した。品種は「サムライ08」で、2012年4月に少量土壌培地耕に定植した株を用いた。「改良切り上げ方式」の区については、2015年6月10日に株元から20cmの位置で収穫し、「アーチング方式」の区については、同日に株元から収穫し試験を開始した。開花が始まった2015年7月から12月までの半年間、収量及び品質の調査を実施したところ、以下の結果が得られた。

- ・収穫本数が各階級で増加

需要の高い長さである60cm~80cmを含め、全ての階級の収穫本数が増加した(図2)。

- ・収穫量の増加

「アーチング方式」の収穫本数が株当たり6.4本に対し、「改良切り上げ方式」の収穫本数は株当たり10.5本で、約1.6倍と多くなった(図2)。

- ・収穫ピークの間隔が短縮

「アーチング方式」の収穫ピークは、7月中旬、9月中旬、10月下旬であったのに対し、「改良切り上げ方式」の収穫ピークは、7月中旬、8月中旬、10月上旬、12月上旬と間隔が短縮した。さらに、10月上旬には収穫本数も多かった(図3)。

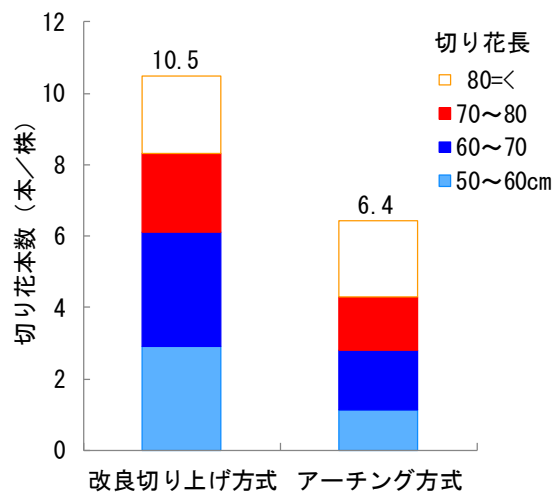


図2 階級別切り花本数

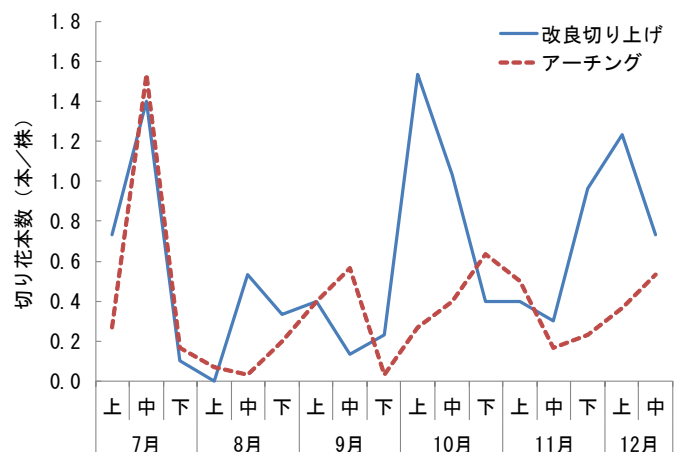


図3 旬別切り花本数の推移

### 4 まとめ

従来の「切り上げ方式」では樹形管理に高度な技術が必要なため、管理できる人が限られていた。「改良切り上げ方式」では、新しく設備投資することなく、「アーチング方式」と同様に光合成専用枝を作成した上で採花母枝を作り、順次決まった高さで切り上げて採花する。採花作業で気をつけることは採花する高さを守ることだけで、経験や技術を必要としない。単純でだれでも同じ管理ができ、さらに収穫本数が増加する樹形管理方法が開

発できた。

Copyright (C) 2018, Aichi Prefecture. All Rights Reserved.